



一人ひとりを大切にするために

一人ひとりを大切にしたい学級にするために、「見る・聞く・認める」の視点を再確認しましょう。学級経営のエキスパート教員 永松教諭に、この時期に意識して取り組んでおられる実践をお聞きしましたので、その一部を御紹介します。

参考：西部教育局作成リーフレット
教師として大切にしたいこと
～子どもを伸ばす先生～



見る 子どもに安心感を与え、力を高める第一歩

自分のことをいつもみている。
自分に関心をもって聞いている。
自分の変化に気付いてくれる。



見守られている
安心感



挑戦する力



子どもたちの朝の様子にはアンテナを高くしています。例えば、登校時の「おはようございます」の声や、朝の会での健康観察の声が、なんだかいつもと違うなと感じたら、あとで個別に声をかけています。学校生活以外の場での出来事や、前日までにあった友達との出来事、悩みを抱えている場合もあります。朝は気分が上がらない子どもたちもいるので、朝の会では少し楽しいことをしたり、お互いのことに興味・関心をもてるようなことを取り入れたりもします。

〔例：健康観察の時、前日に出しておいたお題『遊びに行くならどっち？ A〔山〕 B〔海〕』に対する回答も加えて「はい、〇〇（今日の体調）です。ぼくはAです。」等〕

子どもたち同士や気になる子への会話のきっかけにもなります。

また、子どもたちの様子について、日頃から学年団や支援学級の先生と、放課後などに雑談のような感じでもよいので、話をするようにしています。いろいろな立場から子どもたちを見ること、また、お互いに話せるような関係をつくっておくことで、同じ方向を向いて進んでいくことができます。



聞く 子どもとの関係性を築く第一歩

最後まで話を聞いてくれる。
共感してもらえる。
結論を急がずにじっくりと待ってくれる。



受け止めてもらえる
安心感



信頼関係



積極的に自分から話しかけてくる子もいれば、そうではない子もいます。休憩時間に教室に居る時間をつくることで、普段自分から話に来ない子と話す機会になります。また、給食の時間、班ごとで食べている中に、日替わりで順番に入って一緒に食べることもあります。普段の学校生活の中で子どもたちと話をする機会をもっておくことで、相談や話をしやすい関係をつくっていくように心がけています。



認める 子どもの意欲を育てる第一歩

「自分のよさ」を見付けたり、引き出したりしてくれる。
成長や変容、がんばっているところをほめてくれる。
周りとはべずに、ありのままを受け入れてくれる。
みんなのために取り組んだことに感謝をしてもらえる。



自己有用感
自己肯定感



次の行動へ
向かう意欲



6月は、4月に立てた個人目標を見直す時期にしています。4・5月の様子を振り返り、うまくいっている子にはその過程を価値づけし、うまくいっていない子には仕切り直しの機会とし、「少しがんばったらできそう」な目標へとスモールステップにしたり、何かに特化して焦点化してはどうかとアドバイスしたりします。一学期中ずっと同じよりも、変化させることで、「前はこうだったけれど、こうなったね」と過程を認めることもできます。目標は、子どもたちが毎日目にしやすいところに貼るようにしています。

また、宿泊学習などの行事に向かう際は、事前学習の段階から、プリントに『友達のがんばっているところ』を記入する欄を設けています。4・5月は先生と子どもの縦系を意識し、6月頃からは子ども同士の横系をつなぐことを意識しています。友達の良さに目を向けて認めることは、教師だけでなく、子どもたち同士の関係でも大切にしています。

